

平成20年度三重県公共事業再評価箇所一覧表(県事業)

(単位:百万円)

事業名	番号	箇所名	市町名	再評価の理由	全体事業概要と目的	採択年 目標年	事業進捗状況			事業を巡る社会経済状況等の動向	費用対便益分析結果・コスト縮減の可能性・代替案の検討等	今後の事業の見通し	委員会意見等		
							総事業費	進捗率	事業進捗内容						
														うち工事費	進捗率
森林整備事業(林道事業)	1	三和片川線	熊野市		<p>【全体事業概要】 延長:32,260m 橋梁:8橋</p> <p>【事業目的】 路網が未整備な熊野市紀和町南東部の広大な森林における骨格となる林道として、森林の適正管理と森林資源の有効利用を図るとともに、布引の滝など森林や自然を活かした観光資源へのアクセス道路として地域振興を図ることを目的とする。</p>	S49	7,635	64.0%	<p>延長:21,830m 橋梁:8橋</p> <p>・熊野市は、平成17年11月1日に熊野市と紀和町の合併により誕生した。</p> <p>・熊野市では、平成20年度を始期とする総合計画を樹立し、木材流通の拡大を目標に掲げ、その実現のために行政が果たすべき役割として、林道、作業道の整備をあげている。</p> <p>・熊野原木市場におけるスギ・ヒノキの取扱量及び平均価格を平成15年度と平成19年度と比較すると、取扱量で約3割、平均価格で約2割減少している。</p>	<p>【費用対便益分析結果】 B / C = 130.7億円 / 102.7億円 = 1.27</p> <p>【コスト縮減】 波形線形の採用や幅員、路肩の縮減、また、コンクリート擁壁に替え補強土壁工を積極的に活用し、土工量と法面保護工を縮小すること等により、コストの縮減を図る。</p> <p>【代替案の可能性】 当路線の利用区域内の森林整備を図る必要があることから、当林道を開設する以外に代替案はない。</p>	<p>延長:10,430m 事業費:2,628百万円</p>	<p>事業継続の妥当性が認められたことから事業継続を了承する。 (総括意見) 森林整備事業について、今後、便益、特に森林整備促進便益の内容が分かるよう、より詳細で分かりやすい説明を求める。</p>			
							7,635	64.0%							
						H33	-	-							

平成20年度三重県公共事業再評価箇所一覧表(県事業)

(単位:百万円)

事業名	番号	箇所名	市町名	再評価の理由	全体事業概要と目的	採択年 目標年	事業進捗状況			事業を巡る社会経済状況等の動向	費用対便益分析結果・コスト縮減の可能性・代替案の検討等	今後の事業の見通し	委員会意見等
							総事業費	進捗率	事業進捗内容				
							うち工事費	進捗率					
							うち用地費	進捗率					
森林整備事業(林道事業)	3	三峰局ヶ岳線	松阪市		<p>【全体事業概要】 延長:20,700m 橋梁:4橋</p> <p>【事業目的】 高見山地の山腹に広がる広大な森林地帯中央部を横断する基幹林道として、森林整備の促進を図るとともに、小流域ごとに分断している既設路網を接続し、ネットワーク化して利用区域内の森林施業の効率化を図ることを目的とする。 併せて、国道166号の災害時の迂回路や森林レクリエーションのアクセスとして位置付けている。</p>	H5	4,615	86.0%	<p>延長:16,692m 橋梁:4橋</p> <p>・旧飯高町は、平成17年1月に松阪市、嬉野町、三雲町、及び飯南町の4市町と合併して松阪市となった。</p> <p>・松阪市では、平成18年度を始期とする総合計画を樹立し、林道基盤の整備、担い手の育成、林業経営安定の推進を図ることとし、その実現に向け行政が果たすべき役割として、路網整備をあげている。</p> <p>・原木市場(松阪コンビナート等)におけるスギ・ヒノキの取扱量及び平均価格を平成15年度と平成19年度と比較すると、取扱量で約15%、平均価格で約17%減少している。</p>	<p>【費用便益分析結果】 B / C = 81.8億円 / 63.0億円 = 1.30</p> <p>【コスト縮減】 波形線形の採用や路肩の縮減、また、コンクリート擁壁に替え補強土壁工を積極的に活用し、土工量と法面保護工を縮小すること等により、コストの縮減を図る。</p> <p>【代替案の可能性】 当路線の利用区域内の森林整備を図る必要があることから、当林道を開設する以外に代替案はない。</p>	<p>延長:4,008m 事業費:645百万円</p>	<p>事業継続の妥当性が認められたことから事業継続を了承する。 (総括意見) 森林整備事業について、今後、便益、特に森林整備促進便益の内容が分かるよう、より詳細で分かりやすい説明を求める。</p>	
							4,615	86.0%					
						H27	-	-					

平成20年度三重県公共事業再評価箇所一覧表(県事業)

(単位:百万円)

事業名	番号	箇所名	市町名	再評価の理由	全体事業概要と目的	採択年 目標年	事業進捗状況			事業を巡る社会経済状況等の動向	費用対便益分析結果・コスト縮減の可能性・代替案の検討等	今後の事業の見通し	委員会意見等
							総事業費	進捗率	事業進捗内容				
							うち工事費	進捗率					
							うち用地費	進捗率					
森林整備事業(林道事業)	4	木屋村山線	大紀町・南伊勢町		<p>【全体事業概要】 延長:10,086m 橋梁:1橋</p> <p>【事業目的】 戦後に一斉植林されたスギ・ヒノキの人工造林と、薪炭材跡地(2次林)の森林を効率良く整備し、森林資源の活用促進を図るとともに、森林の持つ公益的機能の早期発揮を目的とする。</p>	H15	1,665	44.0%	<p>延長:4,123m</p> <p>・平成17年2月に大宮町、紀勢町、大内山村が合併して大紀町に、平成17年4月に南勢町、南島町が合併し南伊勢町となった。</p> <p>・主要幹線道国道42号線のバイパス道となる伊勢自動車道尾鷲勢和線が平成20年度に多気町から大紀町まで開通する予定である。また、県道等周辺道路の整備も進んでいる。</p>	<p>【費用対便益分析結果】 B / C = 28.7億円 / 17.1億円 = 1.68</p> <p>【コスト縮減】 波形線形の採用や路肩の縮減、また、コンクリート擁壁に替え補強土壁工を積極的に活用し、土工量と法面保護工を縮小すること等により、コストの縮減を図る。</p> <p>【代替案の可能性】 当路線の利用区域内の森林整備を図る必要があることから、当林道を開設する以外に代替案はない。</p>	<p>延長:5,963m 橋梁工:1橋 事業費:937百万円</p>	<p>事業継続の妥当性が認められたことから事業継続を了承する。 (総括意見) 森林整備事業について、今後、便益、特に森林整備促進便益の内容が分かるよう、より詳細で分かりやすい説明を求める。</p>	
							1,665	44.0%					
						H29	-	-					

平成20年度三重県公共事業再評価箇所一覧表(県事業)

(単位:百万円)

事業名	番号	箇所名	市町名	再評価の理由	全体事業概要と目的	採択年	事業進捗状況			事業を巡る社会経済状況等の動向	費用対便益分析結果・コスト削減の可能性・代替案の検討等	今後の事業の見通し	委員会意見等		
							総事業費	進捗率	事業進捗内容						
														うち工事費	進捗率
														うち用地費	進捗率
港湾事業	26	鳥羽港 佐田浜地区	鳥羽市		<p>【全体事業概要】 防波堤L=310m 浮桟橋N=7基 臨港道路L=200m 港湾緑地A=7,317㎡ 鳥羽市旅客ターミナル1棟</p> <p>【事業目的】 鳥羽港(佐田浜地区)の船舶の輻輳や、旅客設備の老朽化に対応するため。</p>	H6	12,671	86.2%	<p>外郭施設(防波堤)については、平成20年度にほぼ整備が完了し、平成20年度～平成21年度債務工事にて、浮桟橋5基と防波堤L=20mを施工、平成21年度単年度工事にて臨港道路を施工する計画である。なお、旅客ターミナルは鳥羽市の事業である。</p>	<p>鳥羽市は、古くからの港町であり、かつては多くの観光施設を有する観光都市として賑わいを見せていたが、近年は不況の影響を受け観光客の入込みも減少が続いた。しかしながら、ここ数年は国内旅行の人気と相まって、平成18年から再び増加に転じている。また、日本全体の海外からの観光客数が増えていることもあり、海外からの観光客も多く見られるようになって来た。当事業が観光による鳥羽市再生の核となるよう努力していきたい。</p>	<p>費用対便益分析結果 総事業費(割引後)16,490 総便益額(割引後)19,500 費用対便益費 1.18</p> <p>コスト削減の可能性 整備済みの施設については、ライフサイクルコストを踏まえた維持管理計画に基づき管理していくことで経費削減を図る。 残事業の浮桟橋については、発注ロット等の工夫を行いコスト削減に努め、臨港道路についても、市営ターミナルとの工程調整等を適切に行い、可能な限りコストの削減を行う。</p> <p>代替案の可能性 鳥羽港佐田浜地区は、JR、近鉄鳥羽駅前に位置し、大型の公共駐車場が隣接しているという立地条件の良さから、他の地区で代替する事が困難であり、現計画のまま整備を進めることが妥当であると判断した。</p>	<p>平成21年度完了の予定である。</p>	<p>他の公共事業と連携し、計画的に事業を進めるべきであったが、来年度、事業完了予定であることから事業継続を了承する。ただし、次の点について、意見を付するものである。</p> <p>一、幅広い県民の利用を想定する公共施設であるため、特に高齢者など要介護者に対する施設の利便性向上となるよう一層の効果発現に努めるよう求める。</p> <p>一、港湾事業の計画策定にあたっては、過大な投資とならないよう、海岸事業などの他事業や他主体と連携し、整合を図るよう求める。</p> <p>一、既存の施設を再利用する場合には、ライフサイクルコスト低減の観点から、維持管理計画の策定などストックマネジメントを構築するよう求める。</p>		
						H21	89	100%							

平成20年度三重県公共事業事後評価箇所一覧表(県事業)

(単位:百万円)

事業名	番号	箇所名	市町名	全体事業概要と目的	採択年度	完了年度		事業の効果	事業の環境面への配慮及び事業による環境の変化	事業を巡る社会経済情勢等の変化	県民の意見	今後の課題	委員会意見概要
						当初	最終						
						当初	最終						
海岸事業	507	片田地区	志摩市	<p>【全体事業概要】 整備延長 L=720m 離岸堤 4基(L=280m) 人工リーフ4基(L=440m)</p> <p>【事業目的】 異常気象時の高潮・波浪等から海岸背後地の住民の生命・財産を守るため</p>	S49	H15	1,975	<p>・片田地区海岸は、整備前には、高波浪時に越波による被害が度々生じており、平成13年度には堤防が破壊される災害が発生しているが、離岸堤、人工リーフの整備後は、越波による被害は発生しなくなった。</p> <p>・当海岸は伊勢志摩国立公園内に位置していることから、自然環境や景観に配慮して、従来の離岸堤による海岸保全施設から人工リーフ等の景観に配慮した工法に移行している。</p> <p>・当海岸前面の海域では、海女による採貝漁が行われているが、事業完了後も漁獲量に大きな変化はみられない。</p>	<p>・片田地区の人口は減少傾向にあるものの、海岸背後は依然として人家が密集しており、防護の必要性に変化はない。</p>	<p>・平成20年8月 片田地区海岸周辺の住民(391世帯)に対してアンケートを実施。</p> <p>・安全面に対する満足度「満足」11%、「どちらかといえば満足」55%、「不満」9%、「どちらかといえば不満」25%</p> <p>・環境面や景観面に対する満足度「満足」12%、「どちらかといえば満足」62%、「不満」5%、「どちらかといえば不満」21%</p> <p>・整備全体における満足度「満足」10%、「どちらかといえば満足」56%、「不満」4%、「どちらかといえば不満」30%</p> <p>・不満、改善を要する指摘 工事内容、工期など地区住民への周知不足 堤防の補強や嵩上げ要望 離岸堤と離岸堤の間に離岸堤の新設</p>	<p>・事業着手当時は、地元住民との間で計画・施工方法・施工時期・景観等に関する十分な意見調整を図る仕組みが確立していなかった。今後は、事業の計画段階から地元住民の参画を得て、意見を反映するとともに、工事段階においても、工事内容や工期などを地元住民に対して十分に周知を行う。</p> <p>・当海岸堤防は、築後50年近く経過し、老朽化による機能低下が懸念されることから、「南海地震等、大地震に対する危機感が非常に強い。現在、当海岸において既設堤防の補強工事を実施中であるが、その早期完成に努める。</p>	<p>事業の効果、今後の課題については事後評価の妥当性を認める。今後、事業計画段階からの住民参画を進め、住民に対して事業内容などを十分に説明されたい。また、今後は定量的な実績に基づく科学的な評価結果を示すよう求める。</p>	
						H15	2,216						

平成20年度三重県公共事業事後評価箇所一覧表(県事業)

(単位:百万円)

事業名	番号	箇所名	市町名	全体事業概要と目的	採択年度	完了年度		事業の効果	事業の環境面への配慮及び事業による環境の変化	事業を巡る社会経済情勢等の変化	県民の意見	今後の課題	委員会意見概要
						当初	最終						
						当初	最終						
海岸事業	508	海野地区	紀北町	<p>【全体事業概要】 整備延長 L=270m 人工リーフ2基(L=270m)</p> <p>【事業目的】 異常気象時の高潮・波浪等から海岸背後地の住民の生命・財産を守るため</p>	H3	H18	1,390	<p>・平成13年台風11号の来襲時には、海野地区海岸の中央部に流れこむ御馬嘶川河口部にある河川構造物の先端が、人工リーフ未整備区間から進入する高波の影響により被災を受けた。しかしながら、平成15年度の事業完了後、多数の台風が上陸ないし接近したものの、当海岸では海岸保全施設及び背後の人家等に被害は発生せず、防護機能を発揮することができた。</p>	<p>・環境面への配慮 海水浴等、海岸の利用者が多いことから景観に配慮し、海面上に施設の現れない人工リーフを採用した。</p> <p>・周辺環境の変化 水質調査の結果は、事業完了後も工事期間中(H15まで)と比べても、COD値に大きな変化はない。</p>	<p>人口は減少傾向にあるものの、海岸背後は依然として人家が密集しており、防護の必要性に変化はない。</p>	<p>・平成20年8月 海野地区住民(91世帯)に対してアンケートを実施。</p> <p>・事業を実施していたことについて86%の方が認知していた。</p> <p>・人工リーフの機能について58%の方が認知していた。</p> <p>・安全面に対する満足度 「満足」2%、「どちらかといえば満足」42%、「どちらかといえば不満」29%、「不満」10%</p> <p>・景観面に配慮した「人工リーフ」or コストが安い「離岸堤」 「人工リーフがよい」43%、「離岸堤がよい」26%</p> <p>・環境面や景観面に対する満足度 「満足」7%、「どちらかといえば満足」40%、「どちらかといえば不満」24%、「不満」10%</p> <p>・事業全体における満足度 「満足」3%、「どちらかといえば満足」35%、「どちらかといえば不満」34%、「不満」12%</p> <p>・不満、改善を要する指摘 コストがかかりすぎ 海はそのまま堤防を補強するだけで良かった</p>	<p>課題 ・事業着手当時には、地元住民との間で十分な意見調整を図る仕組みが確立していなかった。</p> <p>今後の留意事項 ・事業実施前に地元住民に対して事業目的と内容及び事業による効果の十分な説明 ・事業の計画段階から地元住民の参画を得て、地元の意見を計画に反映していく。</p>	<p>事業の効果、今後の課題については事後評価の妥当性を認める。今後、事業計画段階からの住民参画を進め、住民に対して事業内容などを十分に説明されたい。また、今後は定量的な実績に基づく科学的な評価結果を示すよう求める。</p>
						H15	1,176						